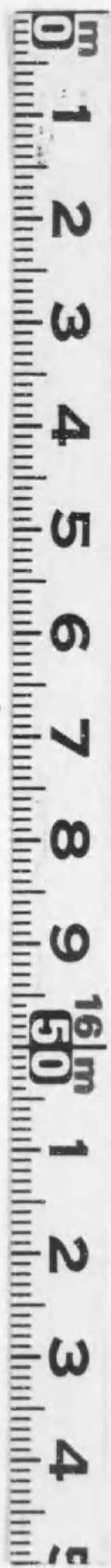
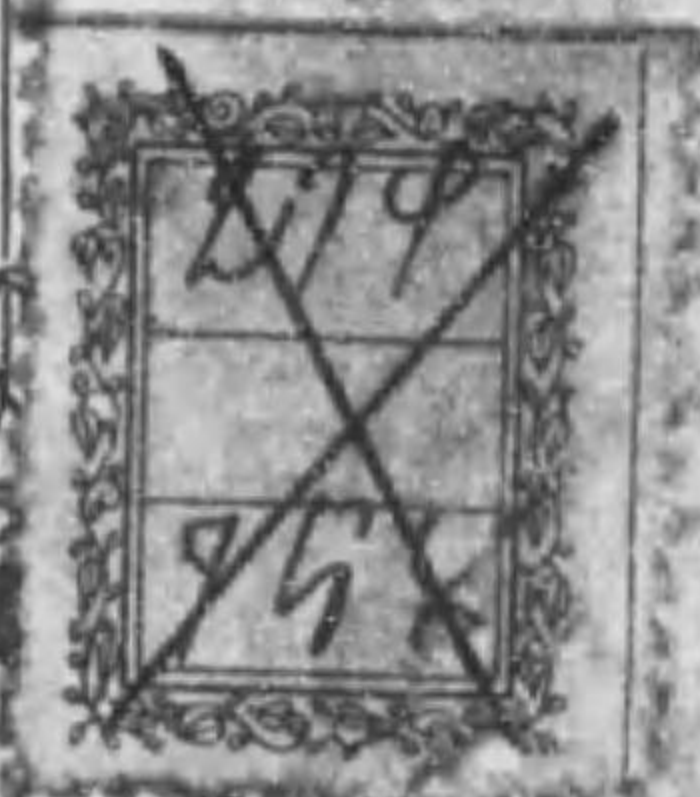


特 III

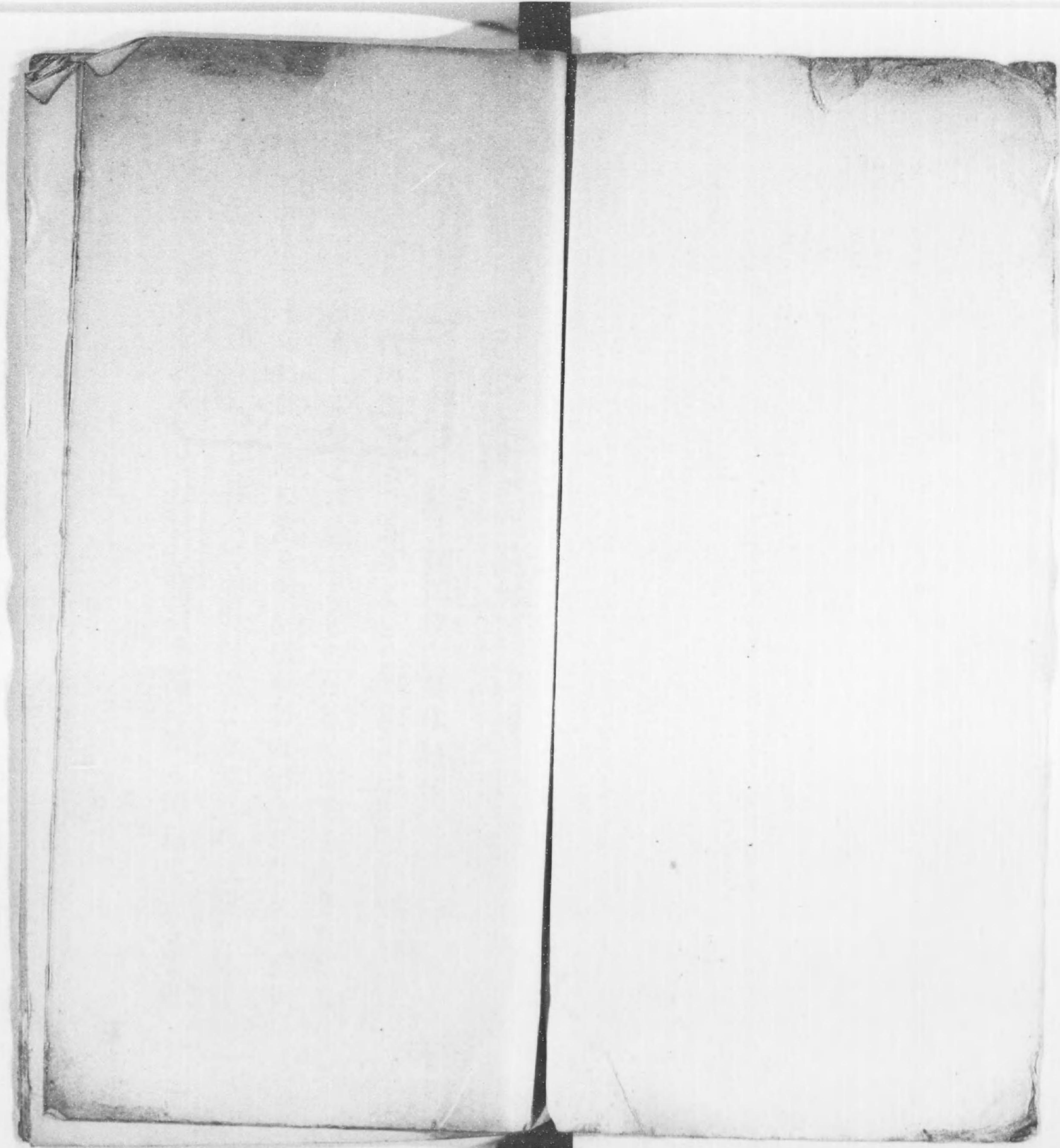
87

御大典記念樹栽之葉



始





御即位大典記念植樹

今秋京都に於て擧げさせ給ふ御即位大典は誠に

今上陛下御一代の御盛儀でありまして我等臣民の此の大典に際

會せんことは實に幸榮之に過ぐるものは無いのであるされば我

等臣民たるものは此の時に當り御聖徳奉頌の記念となるべき事

業を爲し子々孫々に之を傳へて宏大無邊なる聖恩を感謝し併せ

て聖壽の無疆を祈ることは眞に聖旨を體し奉る所以であると思

ふ



さて此の千歳一遇の記念の年をこゝしへに語り傳へ千代八千代  
にいや榮えぬきて君が代をことほぎ奉るものは何であらう之に  
は色々の事業があるであらうけれども最も簡單にして而かも殆  
んど如何なる人にも出來何れの所にも行ひ得るものは先づ記念  
樹の植栽を以て第一であると思ふ即此樹木なるものは植付けの  
後、年毎に其の枝葉がいやまことに榮へて數百年は愚か數千年の  
後に至るも鬱々蒼々として壽命を保つものであれば誠に普遍的  
で而かも幸先のよい好箇の記念であると思ふのである申すも

畏きことながら

今上陛下が東宮にあらせられませし去る明治四十一年の秋我が  
東北に行啓遊ばされました際も巖手公園へ御手づから松を御植  
遊され行啓のみにしるしと成され年毎に枝葉繁りて今や公園の中  
に蔚然として御聖徳を謳歌しつゝ、あるは其の御仁徳の程誠に有  
がたく感ぜらるゝのである、又當時縣は臨時縣會に詢り記念事  
業とし造林の計畫を立て目下着々實行中であつて我が巖手縣民  
は長へに隆恩を記念し得らるゝ次第である

其他尙植栽せられた樹木は年を経るに從て神社佛閣名所舊跡等に於ても其の森嚴を保ち風致を添ゆるものでありまして各所に於て記念樹の植栽せらるゝは全く之に外からぬ事であれば此の大典に際しては誠心誠意之等の事を行つて以て聖旨を奉體すべきであると思へる依て今記念樹栽の方法及各樹種の性質に就て其大要を述べて參考としやう

## 第一。植栽の方法

植栽の方法には大畧二様ある其の一は植樹の数は三本以上一或の數本でも構はぬ要するに其本數の多少にかまはず未來永劫伐採せき記念樹として保護して行くのであります即神社佛閣の境内に學校官衙公署若は個人の庭園などに植付るもこれでありまして例令は神社佛閣の門の兩側であるとか或は學校官衙など此往來から門に到るまでの兩側であるとか又は玄關脇に其敷地の都合に依りて適當なる位置に本數を定めたならば宜敷からう

と思ふ殊に本縣下の學校の如きは新築の校舎が多く而かも其周圍には空地が澤山あるやうに見受けらるゝから此場合相當な樹木を植付けて一は以て記念となし一は以て學校將來の風致木と爲すことゝしたならば頗る適當な事と思ふ

最も此場合特に注意しなければならぬのは兎に角記念樹として植栽したものであるから中年にして濫りに植替たり或は邪魔になるからと云ふて伐拂ふやうなことがあつては甚だ宜敷くないから豫め充分に其位置を撰定して將來其様な事のない様な場

所を選ぶあとが肝要である

其二是植栽事業を以て記念とするのでありまして或年度の後は其樹木を伐採利用して更に其跡地に植繼て行くをいふ仕方である

畢竟従來行はれて居る記念林と同一のものである  
縣下には林野を澤山持て居る町村が多くありますから町村自身は勿論或は學校林として或は在郷軍人會とか青年會とか又は組合とかいふもので借受け記念事業として植栽し併せて基本財産を造成するといふが如きは誠に適當な方法であらうと信じるの

である勿論之等の團體が記念樹を植栽するといふ場合は必ずしも町村有の林野に限つた事は無いから地方の多く林野を持つて居る人々から其一部分を借受けても差支ないのである  
其外個人ごしても同様に自己の持山に造林するごか或は山の麓を開墾して桐を植付けるごかしたならば宜敷からうと思ふ  
要するに斯様にして出来た所此樹木なり林なりは實に子孫後昆れ語草となり或は教育の資料ごして或は財産ごして長へに陛下の御高恩に浴し併せて御大典を記念し奉るごが出来やうご

思ふ

### 第一。植樹の種類

樹木の種類は甚だ數多くありますから記念樹ごしては如何なる種類ご撰定することは出来ませんけれども前に述べた其一即ち數の多少に拘らぎ未來永劫伐採せぎして置く樹ごしては可成年數の長いもので然かも大きくなる種類が適當でありますから此點から杉、赤松、黒松、姫小松、朝鮮松、扁柏、花柏、金松、羅漢柏、樅、榉、公孫樹等の種類は宜敷からうと思ふ

又其二即ち記念林の造林樹種としては以上の外桐、栗などは差  
當り苗木も得易く大規模にも小規模にも出來て宜敷からうと思  
ふ之れ等の内主たるものに就ては其性質造林の方法等後段に其  
大要を述べて御參考に致さうと思ひます

### 第三。植付の季節

植付の季節は樹木の種類によりて一様に謂ふことは出來ません  
が記念といふ上からは御即位の式を擧げさせらるる時即ち十一  
月十日は最も申分のあき日であると思ひますが本縣としては年

ご處とに依りて其頃は既に地表の凍結するころがあるから其様  
な場合は單に秋と云ふことにして一ヶ月早め十月の十日頃なご  
も宜敷いかと思ふ

又樹の種類によりてハ秋植の絶対に宜敷くかいもの即ち桐れ如  
きものがあるから之れ等は是非春植にせなければなりません其  
他の樹種は春秋何れの時でも差支はない只大規模の造林にては  
人夫其の他の關係もあることであるから是等の場合は無論臨機  
に其時期を定めるのが宜敷からうと思ふ



#### 第四。保護及保存の方法

前に述べました其一の場台即ち神社佛閣學校官衙公署の庭園境  
内等に植ゑられた木は常に人の手に觸れ易く殊に學校又は神社  
佛閣等にてはそういふ場合が多いのであるから其周圍などには  
是非柵か何かを設けて特別に保護をする必要がある殊に植たて  
の未だ木の小さい内に特に此必要がある其他林地に於て蟲害火  
災其の他の豫防は申すまでもないことである

其外尙植付られた樹木及林地には標札又は標枕を建てて記念樹

栽たるまごを明示し何人が見ても直ち其の記念たることがわか  
るやうにし若し風雨に晒されて不明瞭となつた時には更に新ら  
しく建換へ未來永劫記念樹たるまごの明かになるやうにしたい  
ものである此旨意から行けば少くとも石標を建つるならば實  
に萬代不易で誠に結構である古來多く記念植栽等が行はれて居  
つたに相違ないのであるか植栽當時餘り深く意に留めなかつた  
結果からして大方由緒のある樹も僅に口碑傳説等に殘つて居る  
位で其真相を知るここが出来ない計りか時には數百年昔の活き

た歴史が斧鉞の厄を受くるやうなことがあつて甚だ遺憾に思ふ  
ところが少くないのである又是等の植栽をした所では重要記録と  
して其植付けた場所植栽者の氏名年月日記念すべき事柄等を詳  
細に記して保存する必要があると信ぜるのである

## 第五、各樹種の性質

### 一、杉

杉は日本特有の樹にして世界無二の靈樹なれば今回の記念樹と  
しては極めて適當したものである殊に本年の勅題は「社頭の杉」

であるゆえ杉は今年と深い縁故を持つて居るから此の樹を記念  
樹とすることは頗る適當なものと思ふ

此の樹は稍陽性であるから他の樹木の立つて居る日蔭の場所  
は充分の生長をすることができまい又之れは肥沃な土地即ち落葉  
や朽土の澤山ある深い土地で成るべく適當に濕氣のある地（俗  
に「やち」）と稱する如き悪水の溜つて居る様な土地は却て生長し  
ない）を好むと此である尙言葉を換へて云へば葛、山芋、藤  
其他の蔓草の生て居る様な地味なれば至極適當である故に新し

く盛土又は切取なごをした所で粘土或は砂礫なごの露れて居る様な土地は適しない例令は新築学校の敷地或は神社佛閣なごの境内にて土地が浅く直ぐ其下に粘土がある様な場所は或ハ一時生長しても直ぐに生長が止まり遂には枯れて仕舞ふよごがあるから此様な土地は他の樹木を植ふるよごにして杉は避るのがよろしいのである

併し神社佛閣なごは新築学校の敷地に較ぶる時は割合に地味の善良な處が多いから隨て杉の適地も多いのである只注意を要す

るのは神社佛閣の境内なごの多く老樹古木が密生して居るから此密生して居る林の中に植るよごは避けなければならぬ能く地方の篤志家が杉を寄附して神社佛閣の境内に樹木の密生して居る下たに植て居るが惜いかな生長するよごが出来ないで居る之れは前にいふ通り強い日蔭には生長の出来ない性質なのであるからして能く前の條件と適合した様な場所を選んで植付るよごが肝要である大規模の造林即ち先きに述べた其二の場合の時は無論地味の善良な所を選んで自然に松の生いて居る様な處は

断じて避けなければならぬ又濕氣があるからと云ふて元からの草刈場で少し水の湧き出づる様な處に能く植ゑてあるがいくら濕氣が多くとも既に地味が瘠て居るから生長は出来ない然も此様な場所は假りに地味が適當しても寧ろ濕氣が多過ぎて生長の出来ない場合が多いのである狭い谷合で勾配の強い山地は割合に生長が良く北又は東等に向ひさる谷間なども亦宜敷いか峰通りになることも多くれ場合宜敷くない

## 二、赤松

日本で名所舊跡と曰へば直ちに松を聯想する例へば天の橋立とか唐崎の松とか近くは隣縣の松島の如き皆松を以て其の風致を保つて居るので松と風致松と名所とは誠に離れらるゝものである杉の形は森巖であるが松の形は何となく優美な處がある故に神社佛閣名所舊蹟などの風致木として最も適當である此樹は杉と全く性質を異にして最も強い陽樹性であるから樹木の下や日蔭の所は殆んど絶対に生育しなから云ても宜敷い又其根は随分深くはびこるからして随て餘程瘠悪な地でも生長するところが

出來る例令は小學校舎の敷地で新たに盛土をしたり切取をした  
りしたやうな場所でも大方は生長が出来る併し山野に自然に生  
えて居るもとは小根(鬚根)が少ないから之れを根植するの頗  
る困難であるゆへに出來得るなら前年の春早く根廻しをして小  
根を充分に生ぜしめ其翌年堀取つて植替るのが安全であるが若  
し然らずんば根を損せぬ様充分に鉢を付けて堀取るよこが肝要  
である

赤松の外松の類で記念樹として適當なものは姫小松(五葉松)黒

松(男松、雄松)朝鮮松(朝鮮五葉)なごて就中朝鮮松は本邦中木曾  
に僅かあるのみで其他の本縣にあるのみであるから本縣内で益  
々之れを繁殖し併せて記念樹として保護するのも宜敷からうこ  
思ふ但し之等の樹は凡て赤松よりも多少地味の肥沃な地を撰ば  
なければならぬ

### 三、扁柏

扁柏は我國建築材の王と稱せられ最も貴重なる樹であつて畏れ  
多くも宮殿は勿論伊勢の御大廟れ如きも皆此扁柏である殊に今

秋御即位式を擧げさせ給ふ京都の御式場の如きも此扁柏を以て造營せらるや承りて居るされば之れ又た誠に記念樹として趣味あるものである(本縣地方に於て俗に「ひのき」と稱するは「ひは」羅漢柏にして茲に稱する扁柏にあらき之れは木曾「ひのき」と稱するものなり)

此の樹は陰樹性にして能く日蔭に堪へ生長することが出来るけれども「餘り強き日蔭にては又た又悪し」杉に較べては其生長稍遅い最も其土質は杉より幾分瘠た所に生長し取分け乾燥地を好む故に茲に一つの山がありこし其峰通りは土地悪く乾燥も甚だしい爲め松の植栽に適して居る麓の方は土地も良好で濕氣も充分であること云ふ時には其中間には丁度扁柏が適當であること云ふ形ちになるのである又此木は土地の淺い岩の多い所にも割合によく生長するまごか出来るものであるが只爰に注意すべきは此の木は元來天然には日光より北の方には無いのであるから二三本宛社寺境内などに植ゆるものは別として大造林を爲すものは大に注意を要するのである殊に膽江、兩磐、氣仙方面の海岸に限

り之れより北方は深く研究を要するのである

#### 四、花 柏

花柏は俗に「ひば」と稱して縣下の民家の周圍に防風樹として植られて居る樹で葉は扁柏の如く材は杉に似て居つて中々長壽を保つ樹である杉に較べるに稍陰樹性で日蔭に堪へるここが出来る地味は杉と略は同じ様な肥沃の所を好む大造林には杉と同様の取扱をすれば差支はない縣下には未だ此樹の大造林を行われたいものはないが寒さには杉と同様随分強いものであるから本縣

には適して居る木曾の五木中にて此の樹が最も多いこの事である

#### 五、金 松

此樹が「かうやまさ」の名稱のあるのは蓋し高野山に大森林を爲して居るからである「山高き故に貴からぎ木あるを以て貴しこそ」と實語經に書いて教を後世に残された空海上人の開かれた高野山の境外の大森林は實に是れである小さい苗木の時には到つて生長は鈍いが六七年後に到りて眞が立ち始めるに随分盛んな生

長をすする其葉茶筭形をして如何にも上品な木樹である之れは最も能く日蔭に堪ゆるよこが出来るが併し生長の矢張適當に光線を受ける處が宜敷い地味は肥沃な所を好む

### 六、羅漢柏

羅漢柏は即ち本縣地方にて俗に稱する「ひのき」である日本三大美林の一たる青森のひばの林と稱するのは之れである最も能く日蔭に生育し土際に垂れた枝が直ちに根を出して林の下に更に林を造つて居る即ち二段林を造て居ると云ふ位で其性質は餘程

日蔭に堪へ得るのである土地は肥沃な所を好むが何分枝の多い樹で大造林としては餘り好ましくないが神社佛閣の境内に他の樹と混淆して生育して居るのは又實に森嚴と風致を沿ゆるに適當な木である

### 七、樅

本縣には東西磐井に最も多くの野生を見氣仙方面にも幾分か存して居る稍瘠悪な地にも堪ゆるが肥沃な地ほど生長は良好である製紙原料として重要な樹種である計りか其幹も巨大到松杉等



と同様に壽命を保ち其枝は常に幹と直角に出で如何にも壯嚴な形をして居る幼時には金松と同じやうに生長は餘り能くないが數年の後には能く生長し記念樹としても亦適當である

### 八、櫟

櫟は我が國の濶葉樹中で建築材として殊に船艦材として最も有數なものである本縣は古來より中々良材を産出して居る幼樹にありては其生長格別目立たざれども漸次發育盛んこあつて數百年以上の高齡を保ち頗る雄大の觀を呈するものである隨て各所

の神社佛閣の境内に神木として保存せられて居るのが多く記念樹として亦好適である

此樹は幼齡の時は稍日蔭に堪へ得るも生長するに隨て漸次に陽光を好むものなれば能く植栽の場所を撰ぶ必要がある又土地は朽土に富める肥沃の處に完全な生育を爲し粘土質の土地又は濕地には不適當である大体に於て杉の植栽に適當した様な土地なれば充分である

### 九、公孫樹

公孫樹ハ前世記の遺物であつて現今では本邦と支那に生育して居るのである即ち東洋の特産種であるから之を保存する爲めにも此樹の植栽は宜敷いれである從來神社佛閣の境内に多く植付けられ現今大木となつて居るものがある其姿勢は雄大で秋期の黄葉は實に得も言われぬ見事であるから之亦記念樹として適當であらうと信じる此樹は雌木と雄木とあつて實は雌木にのみ結ぶのである成るべく肥沃なる地を好み又陽光の充分なる地を撰ぶべきである本縣では大抵の處に生育することが出来る

## 十、桐

本縣は桐は南部の紫桐と稱し材は紫紅色を帯び甚だ優良なるを以て東京市場でも非常に賞賛せられて居る併し此の木の壽命は前數者に比して比較的短かく外界の障害を受け易くして末代の記念樹としては稍々ふさわしからざれども此の御大典に際會せる記念として植る初め漸次適當の時期に至らば之を伐採利用して其跡地には直ちに苗木を植ゑ付くるか若しくは萌芽によりて後繼樹を仕立て行く時は一方には永く記念となると共に他方に

は益々南部桐の名を博し且つは相當の收利もあれば此際記念として農家各戸の空地を利用して植栽するのは又適當なる事業であらう

元來桐の最も多くの肥料分を要するものであるから普通の山野に仕立つるよこは少々困難であるから荒畑又は畑地と周圍或は宅地内にて地味の肥沃な「水はけ」(排水)の良い所で西北の寒風と西日を除ける處即ち言葉を換へて云へば砂質壤土にして排水善良に家屋樹木等によりて風除ある場所を植付くるが宜しいの

である

苗木は根の充分發育した二尺乃至三尺位のものを撰んで春彼岸後地表の凍結しないやうになつた時季を待て植ゑる(特に桐は春植に限る)此の際充分に肥料を施して成るべく勢力を付け翌年の春前年の植付と同時に季位に地上一寸位を残して臺切を行ふのであるすると其根株から三四本の新芽を出すから其内最も勢の強いもの一本を残して其の他はかき取るのである而して秋季落葉後に藁を以て其新芽の全部を殊に梢頭は稍厚く包み寒さに

對する保護を爲し更に翌春寒さの虞れ無くなつた頃此菓を取去るのである尙寒さの強い地方では一二年間梢頭丈けを同様の保護を爲せば最も安全である肥料としては馬糞、人糞、堆肥等は最も適當である已からき肥料が充分に行渡りて勢力が盛んであれば總ての病蟲害に對しても抵抗力は頗る強くなるのである

### 十一、栗

栗は温帯北部を郷土とする樹であるから東北地方には最も完全なる生育をなし殊に本縣は本邦有名の栗の産地である是の樹は

風雅でも無く又雄大でもなければ單に記念樹としてはふさはしからねど其の材は質堅硬で弾力に富み能く水濕に堪え保存期極めて長きが故に古來土藏の柱、家屋の土臺、井桁、船の舵及櫂、屋根板等に供せられ殊に鐵道枕木としては大に賞用せられ枕木中の白眉である又其の實は各種の料理、菓子原料其の他の食料として賞賛せられ需用頗る多ければ一方に於ては此の樹を植栽して記念とし他方に於ては材又は實を利用して相當の收利を擧げ且つは益々本縣の名を擧げんには此の樹の植栽も亦適當な

る事業である

栗には其の種類非常に多いけれども樹實を目的とする場合にハ  
大栗、中栗が最も適當し用材を取らんとする爲めには小栗又は  
柴栗が最も宜しい此樹はあまり土地の肥瘠を撰ばないけれども  
完全の生育を爲すには砂質、壤土の地で適濕の所は宜しい又比  
較的乾燥地には生育するけきとも濕氣の強き地には耐ゆる事は  
出来ぬ西日の強く直射する所では生長は甚だ不良である栗の用  
材林を仕立つる時は適當に密植して枝の多く出づるを防ぎ従つ

て節の少なき良材を得る事に努めなければならぬ此の場合には  
一反歩の植栽本數三百乃至四百五十本位を適當とする樹實を目  
的とする場合には一反歩六十本乃至百本位を植付け充分陽光を  
受けしむる様にする必要がある最初適當に密植し生長するに従  
ひ漸次間伐を行ひ下木として他樹を生育せしめ二段林を形成せ  
しむれば無枝無節の直なる良材を得一面ハは樹實をも得られ一  
舉兩得の策である最も栗は陽光を好む樹であり又樹實を得る爲  
めには充分の陽光を與ふる必要があるから下木は何時も栗樹を

凌がしめぬ様取扱ふ事に注意せねばならぬ  
要するに今回の記念事業としては大面積の造林を  
する事は勿論であるが場合に依りては各自所有の  
小面積の空地又は前述の如く学校、官衙、公署等に  
植栽する目的なのである

### 御大典記念樹栽之葉終

大正三年三月二十日印刷  
大正三年三月廿五日發行

巖手縣内務部山林課

印刷者 大澤吉彌  
盛岡市仁王小路四十番戸

發行所 大澤活版所  
盛岡市仁王小路四十番戸



終

